

JICA 開発大学院連携プログラム（各大学におけるプログラム）概要

大学名	愛媛大学
研究科名	農学研究科
研究科の特色	https://www.agr.ehime-u.ac.jp/graduate/
プログラム概要	本プログラムでは、国内外における農林水産業の発展と課題について理解を深めるとともに、課題に対する解決方法の提案やその実践におけるフィールドワークスキルを習得することで、課題解決の実践において強いリーダーシップを発揮できる国際的人材を育成することを目的とする。
「日本の開発経験に関する講義」の概要	<p>①「International agriculture, forestry and fisheries seminar」</p> <p>講義概要：農林水産業に関する国際的な課題の概要について理解を深めるとともに、途上国における実例を紹介しながら現場での課題解決に向けた目標、協力、その後のフォロー体制について包括的な取り組みの重要性について理解を深める。</p> <p>担当教員：荒木卓哉教授</p> <p>開講時期：1年秋学期、単位数：1単位</p> <p>②「Development history of Agriculture, Forestry and Fisheries in Japan」</p> <p>講義概要：「飢餓の終焉，食料保障と栄養改善の実現」と「持続可能な農林水産業の促進」は国際的な共通認識である。特に農業開発の取組は差し迫った課題である。本講義は愛媛大学の理念である「世界とつながる大学」を実践するために、AAP 特別コースにおける「安全・安心な食料の安定供給」, 「生命機能の解明と生物資源の利用」, 「生物環境の創造・修復・保全・管理・利用」に資する「日本の成長と開発の歴史」を e-learning 教材により教授する。</p> <p>担当教員：荒木卓哉教授ほか</p> <p>開講時期：1～2年、単位数：2単位</p> <p>③「Resilient Agriculture, forestry and fisheries in Japan with Risk Management」</p> <p>講義概要：安全で持続可能な農林水産業にとって気候変動に対する脆弱性を克服するためのリスクマネジメントは必要不可欠である。本講義では、農業の中でも果樹園地の極度の気候災害に対する脆弱性に着目し、日本における取組の現状を紹介する。また、被害に遭った果樹園地の復旧技術についても紹介する。</p> <p>更に、大学で行うフィールドワークを安全にかつ有意義に実施するためのスキルについても、フィールドワークを通じて、日本の農林水産業における具体的な事例を例に学ぶ。</p> <p>担当教員：小林 修准教授、小林範之教授</p> <p>開講時期：1～2年、単位数 1単位</p>

関連 URL

<https://www.agr.ehime-u.ac.jp/en/graduate/special/>

プログラムの
魅力紹介



3大学合同修了式

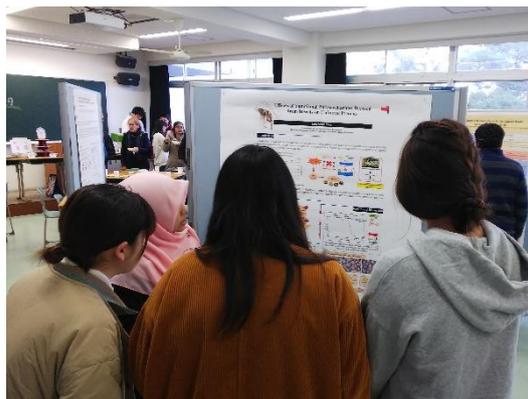


グローバルリーダーセミナー

3大学合同(テレビ会議)



サマーセミナー(研修施設にて2泊3日で実施) スタディトリップ(サテライト森林施設見学)
でのカヌー体験農学部開催イベント



“国際ワークショップ”

フードコーナー(留学生の母国の料理提供)併設ポスターセッションにて日本人学生と交流

* イベントはいずれもコロナ禍前実施のもの

特別コースの特色

● 留学生および日本人学生の両方を対象としたグローバルリーダー養成のための

英語による学位取得が可能なコースです。

- 愛媛大学に加え、香川大学および高知大学とで形成された教育コンソーシアム四国が提供する教育プログラムは、多岐にわたる農学関連のすべての課題に対応可能です。アクティブラーニングを多く取り入れた実践的な内容で構成されています。